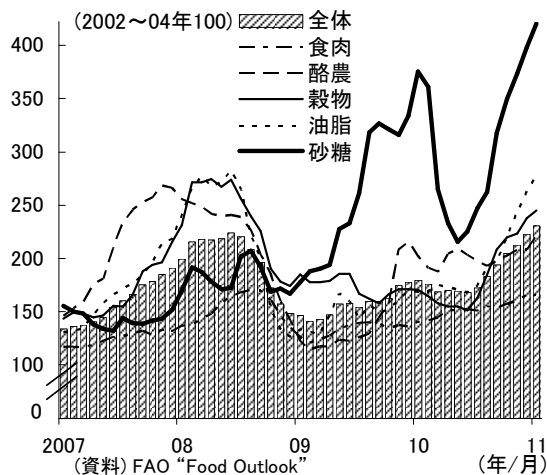


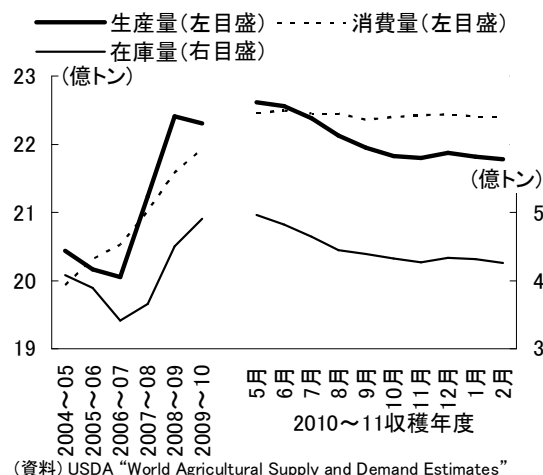
上昇圧力増大する穀物価格 ～ 昨年未来の中国天候不順が長期化 ～

- (1) 食糧価格が一段と上昇。F A Oによると、2011年1月の食糧価格は、昨年12月を上回り、既往最高水準へ（図表1）。主因は砂糖や油脂に加え、小麦をはじめとする穀物価格の上昇。穀物価格の上昇は単なるインフレ問題にとどまらず。チュニジアやエジプトでみられる通り、今日では政治的意味合いも。
- (2) しかし穀物、とりわけ小麦価格が下落に向かうか否か厳しい状況。まずアメリカ農務省が発表した11年2月の世界穀物生産予測は1月をさらに下回る見通し（図表2）。その結果、消費量は横這うものの、在庫量は一段の減少へ。
- (3) 加えて、中国の天候不順問題。中国は世界最大の小麦生産国（図表3）。しかし、国内の需要規模が際立って大きく、国内需要の充足で手一杯。多くの生産国と異なり、輸出余力は限定的。
- (4) そうした情勢下、中国の小麦生産に暗雲。昨年末に播種された冬小麦の収穫懸念が台頭。例年に無い深刻な降水量不足が長引いているため（図表4）。安徽省や江蘇省など、中国の主要小麦生産地域である7省について各省都の降水量をみると、昨年11月以降、深刻な降水量不足に直面。2月入り後も降水量不足が続いている模様。仮に冬小麦が打撃を受けると、国内需要を確保するために、輸入への依存度を大幅に引き上げる可能性大。それに対して、アメリカ農務省予測に拠れば生産量の拡大余地小。このようにみると、小麦など穀物市場を中心に食料品価格に対する上昇圧力が引き続き作用する懸念大。

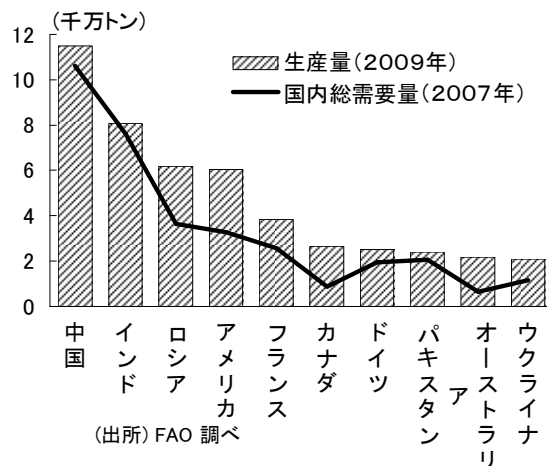
（図表1）食糧価格の推移



（図表2）穀物需給の見通し（米農務省）



（図表3）主要小麦生産国の生産・消費量



（図表4）中国主要小麦生産地域の降水量

